高齢者や障がいのある人も住みやすい街を

発行者:別府市議会行財政改革クラブ 泉 武弘



市議会議員 泉 武弘

おかげさまで 10 回当選をすることが できました。 万感の思いを込めて お礼を申し上げます。

4月25日に当選証書をいただき、議員として10 期目の政治活動が始まりました。

私にとって今回の選挙は、告示直前に帯状疱疹で 入院、退院後も療養で一度も有権者にお会いすることもできませんでした。それにも拘らず議席を与え ていただきました皆さんに万感の思いを込めて感謝 の言葉を申し上げます。

これからも私の全てをかけて皆さんの期待に応える 事ができるよう全力で取り組むことをお約束します。

議会では、最古参議員の自覚と責任を忘れずに、 市民から信頼される議員として「市民の幸せづくり」 と「行政監視」に全力で取り組みます。

私の政治姿勢は、行政に対して「是々非々」を基本として、市民のために役立つ予算には賛成します。 しかし、市民の利益に繋がらない予算には、身体を 張って反対しますのでご理解下さい。私も70代の終 わりが近づきましたが、今まで以上に頑張りますの で倍旧のご支援をお願いいたします。

(1) 高齢化の状況

65歳~ 74歳 13.5% 29% 75歳以上 15.5% **総人口1億2,495万人** (令和4年10月1日現在)

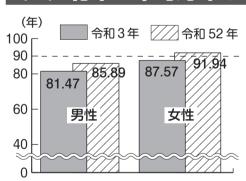
65歳以上 3,624万人 (高齢化率) 29.0% 男 1.573万人

<u>男 1,573万人</u> 女 2,051万人

※ 別府市の高齢者人口は、38,880人で、高齢化率は、 34.4%となっています。(令和4年度末現在)

※高齢化率=総人口に占める高齢者(65歳以上)の割合

(2) 将来の平均寿命は

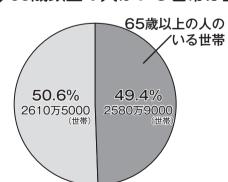


我が国の平均寿命は、<u>令</u>和3年現在、男性81.47年、女性87.57年と、前年に比べて男性は0.09年、女性は0.14年下回りました。しかし、今後、男女とも平均寿命は延びて、令和52年に

は、男性85.89年、女性91.94年となり、女性は90年を超えると見込まれています。

(3) 家族と世帯

◆65歳以上の人がいる世帯は全世帯の約半分



昭和55年では、世帯構造の中で、三世代世帯の割合が一番多く、全体の半数を占めていましたが、令和3年では夫婦のみの世帯及び単独世帯が、それぞれ約3割を占めています。

◆65歳以上の一人暮らしの人が増加 65歳以上の一人暮らしの人は男女ともに増加傾向にあり ます。

《65歳以上の男女それぞれの人口に占める割合》

■ <u>昭和55年:男性4.3%、女性11.2%</u> ■ 令和 2 年:男性15.0%、女性22.1%

(4)高齢者の暮し動向

◆経済的な暮らし向きについて 内閣府の調査では、経済的な暮らし向きについて「心配が











ない」(「家計にゆとりがあり、まったく心配なく暮らしている」と「家計にあまりゆとりはないが、それほど心配なく暮らしている」の合計)と感じている人の割合は、全体で68.5%となっています。

◆労働力人口について

労働力人口とは、15歳以上人口のうち、就業者と完全失業者を合わせた人口のことです。労働力人口には、専業主婦や学生など労働能力はあってもその意思を持たない人や、病弱者・老齢者など労働能力を持たない人は含まれません。

※労働力人口に占める65歳以上の人の比率は上昇

令和4年の労働力人口は、6,902万人でした。労働力人口のうち65~69歳の人は395万人、70歳以上の人は532万人であり、労働力人口総数に占める65歳以上の人の割合は13.4%と長期的には上昇傾向にあります。

※男性は60代後半でも全体の半数以上が働いている 《男女別就業者割合》

男性: 60~64歳 83.9% /65~69歳 61.0% /70~74歳41.8% 女性: 60~64歳 62.7% /65~69歳 41.3% /70~74歳26.1% 男性の場合、65歳を過ぎても、多くの人が就業しています。

※「働けるうちはいつまでも」働きたい

現在収入のある仕事をしている60歳以上の人については、約4割が「働けるうちはいつまでも」働きたいと回答しています。

(5) 健康

◆65歳以上の人の体力テストの合計点は向上傾向

令和3年度の65~69歳、70~74歳及び75~79歳の男女の新体力テスト(握力、上体起こし、長座体前屈、開眼片足立ち、10m障害物歩行、6分間歩行)の合計点は、それぞれ平成15年以降横ばいまたは向上傾向を示しています。

健康上の問題で日常生活に制限のない期間(健康寿命)は、令和元年時点で男性が72.68年、女性が75.38年となっており、それぞれ平成22年と比べて健康寿命の延びは、平均寿命の延びを上回っています。

《平成22年→令和元年の延び》

健康寿命:男性2.26年、女性1.76年 平均寿命:男性1.86年、女性1.15年

《運動習慣のある人の割合》(令和元年)

	男性	女性					
65~74歳	38.0%	31.1%					
75歳以上	46.9%	37.8%					
20~64歳	23.5%	16.9%					

■ 運動習慣のある 人の割合(令和元 年)を見ると、75歳 以上において特に

運動習慣のある人の割合が高く、性別で見ると男性の割合が 女性よりも高くなっています。また、男性、女性いずれも、 それぞれの20~64歳の23.5%、16.9%と比べ高い水準と なっています。

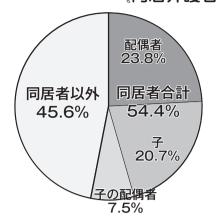
(6) 65歳以上の介護

65歳以上の人の要介護者等数は増加しており、特に75歳以上で割合が高くなっています。介護保険制度における要介護又は要支援の認定を受けた人(以下「要介護者等」)は、令和2年度で668.9万人となっており、平成22年度(490.7万人)から178.1万人増加しています。

要介護者等から見た主な介護者の続柄を見ると、同居している人が54.4%となっています。

要介護者等と同居している主な介護者の年齢について見ると、男性では72.4%、女性では73.8%が60歳以上であり、いわゆる「老老介護」のケースも相当数存在していることが分かります。

《同居介護者の主な内訳》



続柄: <u>配偶者 23.8%</u> <u>子 20.7%</u> 子の配偶者 7.5%

性別: <u>男性 35.0%</u> 女性 65.0%

介護施設等の定員数は、増加傾向にあります。施設別に見ると、令和3年では、有料老人ホーム(63万5,879人)、介護老人福祉施設(特養)(58万6,061人)、介護老人保健施設(老健)(37万1,323人)等の定員数が多く、近年は有料老人ホームの定員数が特に増えています。

◆介護に従事する職員数は増加

要介護(要支援)認定者数の増加に伴い、介護に従事する職員数は増加しており、令和3年度は、214.9万人となっています。介護関係の職種の有効求人倍率を見ると、全職業の有効求人倍率に比べ、高い水準が続いており、令和4年には3.71倍となっています(全職業有効求人倍率は1.16倍)。

◆高齢者虐待に関する件数

養護者による虐待を受けている高齢者の約7割が要介護認定者 養護者による虐待の種別(複数回答)は、<u>身体的虐待が</u> 67.3%で最も多く、次いで、心理的虐待が39.5%、介護等 放棄が19.2%、経済的虐待が14.3%となっています。

養護者による虐待を受けている高齢者の属性を見ると、 女性が75.6%を占めています。年齢階級別では「80~84歳」 が24.6%と最も多く、また、虐待を受けている高齢者のうち、 68.0%(約7割)が要介護認定を受けています。

<u>虐待の加害者は、「息子」が38.9%と最も多く、次いで、「夫」</u>が22.8%、「娘」が19.0%となっています。

|(7)生きがいを感じる程度について

生きがい(喜びや楽しみ)を感じる程度について見ると、 生きがいを「十分感じている」が22.9%、「多少感じている」 が49.4%となっており、合計すると72.3%となっています。 ※健康状態が良い人ほど生きがいを感じている

現在の健康状態別に生きがいを感じる程度を見ると、健康 状態が「良い」と回答した人ほど生きがいを感じる程度は高 くなっており、健康状態と生きがいは非常に強い相関関係が 見られます。

(8)日常生活の状況について

《近所の人との付き合い方(複数回答)》

*会えば挨拶をする:82.8%

*外でちょっと立ち話をする:57.3%

*物をあげたりもらったりする:50.8%

男性よりも女性の方が、「外でちょっと立ち話をする」「物をあげたりもらったりする」などと回答した人の割合が高くなっています。

近所の人との付き合い方別に生きがいを感じる程度を見ると、生きがいを「十分感じている」と感じた人の割合は、「趣味をともにする」と回答した人では33.2%、「お茶や食事を一緒にする」と回答した人では30.4%、「外でちょっと立ち話をする」と回答した人では26.2%と、いずれもこうした付き合いをしていない人に比べ、高くなっています。













高齢者問題が顕在化する2025年が迫ってきました。それは、昭和22~24年に生まれた(810万人)第1次ベビーブーム世代が後期高齢者に到達するからです。

そのあと、その世代の子供が高齢者になる2040年問題が あります。

私も後期高齢者真っ盛りです。この機会に皆さんと一緒に別府市の高齢者を取り巻く問題を考えて見たいと思います。

人口集計表による

単位:ノ

項目	H29年度末	H30年度末	R1年度末	R2年度末	R3年度末	R4年度末
市内全人口	117,698	117,017	115,848	114,216	112,655	112,991
うち65歳以上人口	39,111	39,339	39,382	39,349	39,179	38,880
うち75歳以上人口	20,545	21,066	21,346	21,384	21,770	22,394

別府市では、65歳以上の高齢者人口に占める、75歳以上 高齢者が半数を超えています。このことからも、人口の高齢 化が見て取れます。

②ひとり暮らし高齢者数 ※民生委員による調査

(単位:人)

					· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
項目	H29年度末	H30年度末	R1年度末	R2年度末	R3年度末	R4年度末
ひとり暮らし	6,542	6,524	6,452	6,220	_	6,071

ひとり暮らし高齢者は孤独、孤立などの問題があります。 それにも増して大切なことは、病気や災害時の支援体制の 確立です。

③認知症患者数 (介護保険認定上。施設入所者含む)

(単位:人)

_							
	項目	H29年度末	H30年度末	R1年度末	R2年度末	R3年度末	R4年度末
	認知症	4,629	4,890	5,094	5,383	5,532	5,559

認知症は国民病とも言われ、高齢者の5人に1人が認知症になるとの推計があります。認知症対策と同じように、認知症患者の家族対策も極めて大切なことです。

④寝たきり高齢者数 ※要介護(要支援)認定情報による障害高齢者日常生活自立度(寝たきり度) (単位:人)

項目	H29年度末	H30年度末	R1年度末	R2年度末	R3年度末	R4年度末
寝たきり	2,308	2,371	2,383	2,427	2,581	2,493

寝たきりになると家族の生活環境が大きく変わります。

寝たきり対策も大切ですが、寝たきりにならない対策は もっと大切なことです。そのためには、予防検診・運動・ボ ランティアやサークル活動などに参加することが大切です。

⑤要介護認定者数

(単位:人)

項目	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
要支援者	1,236	1,221	1,195	1,133	1,184	1,296
要介護	5,135	5,370	5,461	5,711	5,831	5,913
介護認定(総数)	6,371	6,591	6,656	6,844	7,015	7,209

要介護、要支援者は増加しています。高齢化やひとり暮らし、コロナによる健康被害などで、介護や支援を必要とする 高齢者が大幅に増加しています。

ここでの問題は、介護や支援を必要とする高齢者や障がい者の増加見込に対し、介護人材確保が出来ていないことです。

さらに深刻な問題は、別府市の介護に携わる人材不足は 2025年見込みで140人ですが、現時点では人材確保の見込 みがないことです。 <u>その結果、別府市では介護を受けたくても受けることがで</u>きない事が現実となります。

認知症行方不明、最多を更新

2021年時点、警察に届け出があった認知症やその疑いのある行方不明者は、1万7,565人(前年比86人増)で、統計を取り始めた2012年以降、8年連続で前年より増えています。

<u>認知症で行方不明になる年齢は、80歳以上(9,619人)</u> と70代(6,887人)で全体の94%を占めています。

警察庁によると、発見までの期間は、届け出当日が74.2%で、99.3%は1週間以内に見つかっています。

2年以上も5人いました。<u>しかし、527人は不明中に事故</u>に遭うなどして亡くなっています。

全国・別府市共に高齢者を取り巻く環境が大変厳しいことがお分かりいただけたと思います。

⑥変死者数 ※別府警察署からの回答

(単位:人)

項目	H29年度末	H30年度末	R1年度末	R2年度末	R3年度末	R4年度末
変死者(総数)	158	167	148	166	183	190
変死者(65歳以上)	129	119	104	137	141	153
				内独居 73	内独居 67	内独居 80

高齢者や障がい者を取り巻く環境の厳しさがご 理解いただけたと思います。私のすべてをかけ て高齢者や障がい者の住みやすい街づくりに取 り組みます。



戦後間もなくスタートした競輪は70年を経過しました。 そこで競輪はどのような歴史を辿ってきたのか見てみま

す。元満州国官吏の海老沢清と元陸軍大尉の倉沢貞助が現在の競輪の礎をつくりました。ところが、会社だけでは運営できないことがわかり、政治家に頼み自転車競技法が作られました。国民体育大会自転車競技場として、小倉競輪場で「第1回小倉競輪」開催され、今日に至っています。

競輪事業の目的は

自転車などの機械の振興や、地方財政の健全化を図る。

競輪の収益については厳密に定めており、車券売上金額の 25%は競輪施行者のものとなります。

この25%の内の一部が日本自転車振興会や、自転車競技会に支払われます。

競輪の収益金の使途は自転車競技法22条に 次のように決められています。

競輪事業の収益は自転車その他の機械の改良及び機械工業 の合理化、並びに、**社会福祉の増進・医療の普及・教育の発** **展・体育の振興、その他の住民福祉の増進を図る**財源に充てるよう決められています。

これまで収益金460億円を市に繰入れ

競輪事業は競輪事業特別会計で運営され、別府市の会計とは別になっています。

特別会計とは、特定の収入(競輪)をもって、特定の支出 (競輪事業に必要な費用) に充てる会計です。

競輪事業の収益金から、別府市に毎年繰り入れをしています。最近5ヶ年だけでも21億5千万円繰り入れ、これまで市への繰り入れ総額は460億円を超えています。

ここでの注視点は、**競輪事業の収益は別府市独自の特定財** 源ということです。

競輪事業の現状と課題について 経済産業省は次のように指摘しています。

競輪事業の営業収支を見ると、全施行者で黒字となっている。一方、支出面で見ると、競輪場施設整備への支出が主で、市への繰出が少ないことが課題と指摘しているのです。

そこで、競輪事業会計の現状を見ると、次のようになっています。

■基金(単位:円						
基金名称	令和5年3月31日	令和5年5月31日				
別府市競輪事業基金	888,558,779	888,558,779				
別府市競輪施設整備基金	4,153,626,636	5,160,626,636				
別府競輪場周辺環境改善基金	10,022,375	10,022,375				

令和5年5月31日時点で基金が60億円あります。

経済産業省の指摘の通り、市への繰入金額が少ないことが 数字からも見て取れます。

競輪収益の使い方はこのままでよいのでしょうか。

①競輪事業は公営ギャンブルであり、売り上げ増加の陰には 公営ギャンブルで損をした多くの方がいます。



お礼とお願い

今回の市政だより40,000部の 印刷費の一部に、政務活動費を使 わせていただきます。しかし、政

治活動を活発にすればするほど資金が不足します。これからも、「市政の真実」を発信し続けたいと思っています。是非、みなさんの浄財で市政だより発行を支援していただきますようお願い申し上げます。

<u>尚、市政だよりは経費削減のため</u> 40,000世帯全部私がお届けしてい ます。

浄財のカンパは、

■行財政改革クラブ 泉 武弘 みらい信用金庫 鉄輪支店 005-9205309

- ②競輪収入は、競輪主催市(全国43ヶ所)だけの特定財源です。
- ③これまで460億円も別府市に繰入れています。

<u>皆さんは今回の競輪事業特集で驚いているのではないで</u> しょうか。

<u>ここでの問題は、競輪事業が目的に沿って行われているか</u>ということなのです。

すでに述べたように、競輪の収益は、社会福祉増進、教育 の発展、体育の振興、医療の普及等の財源に使うことが求め られています。

別府市の現状はどうでしょうか

学校給食費・子供の医療費・ワンコインバス運行経費・障がい者医療の研究などにおいて、別府市民は他の市民に比べ 恩恵を受けているでしょうか。

最近5年間だけでも21億5,000万円、市に繰入れをしています。別府市は競輪の収益金という「特定の財源」を持ちながら、ワンコインバスの運行ができていないのです。

市は、ワンコインバスの年間運行経費は、約1億円と説明しています。その説明通りとすれば、競輪事業収入から10億円を運行経費に回せば、10年間運行できるのです。また、子供の医療費や給食費、障がい者医療の研究費にも充当できるのです。

何故、住民福祉や教育振興、障がい者の医療研究に使わないのか理解できないのは私だけでしょうか。

今号もお読みいただきありがとうございました。

